

# EIWA UNIVERSE

発行日 2013.3.5 第7号

## 観光ゼミ合同「静岡市宿泊観光促進プロジェクト」

### 観

光ゼミ（人間社会学科崔瑛講師、野瀬元子講師の2ゼミ）では、2年生23名全員が参加し、「静岡市宿泊観光促進プロジェクト」に取り組みました。本プロジェクトは、大学が立地する静岡市を対象として、通過型観光が多い現状から滞在型観光の促進を念頭に、静岡周辺の広域連携も考慮しながら関係主体の実態を学生が実地調査し、学生の視点から観光振興の提言を行うことを目的としています。

この活動は「専門演習Ⅰ」の授業の一環として行われたものですが、人間社会学科では2年生後期から「専門演習Ⅰ」（専門ゼミ）が始まり、3年生の「専門演習Ⅱ」、4年生の「卒業研究」までの2年半をかけて専攻分野の指導教員の下で学修を積みカリキュラムの一部として位置づけられます。

2012年9月からの約3ヶ月の間、7つのテーマ毎に3～4名で構成される班に分かれて、①首都圏在住者を対象としたWEBアンケートによる意識調査、宿泊施設（②ホテルアソシア静岡、③日本平ホテル）ならびに温泉地（④梅ヶ島、⑤寸又峡・川根本町）の現地調査、⑥旅行業（JTB中部 静岡支店）及び⑦観光行政（静岡市役所）を対象とした調査の企画・設計・実施を進めてきました。特に、1月下旬に日本平ホテルが会場となって開催された国連軍縮会議では静岡県、静岡市、旅行会社がサポートしており、このような会議誘致をはじめとするMICEと呼ばれる観光への注目が高まるな

か、学生自身が社会で起きていることを実地で学ぶ好機となりました。

グループ作業の進め方に始まり、調査設計、依頼文の作成、電話での挨拶、学外の方々に対する調査主体としての聞き取り方法、調査データの整理など、数々の経験を乗り越えて来ましたが、特に実際の聞き取り調査では学生は戸惑いを感じ、非常に緊張する場面が多かったようでした。本プロジェクトの成果について1月17日に開催された最終報告会でプレゼンテーションを行いました。

今後も観光ゼミでは、今回のプロジェクトで得られた知見を活かしながら、大学構成員と地域の産業界や行政関係者の方々との連携を深め、観光による地域活性化につながる取り組みを続けていきます。（人間社会学科 野瀬）



《 2013. 1. 17 報告会の様子 》

### ハイライト:

- 人間社会学科 観光プロジェクト(1面)
- コミュニ福祉学科の取組(4面)
- 2013年度授業料等学納金の納入について(8面)

### 目次:

- 学長・副学長あいさつ 2
- 宗教より 3
- ボランティアより 3
- 学科News (大学) 4
- 学科News (短大) 5
- キャリア支援課より 6
- 学務課より 7



## 活気ある学生生活の創出を

学長 武藤 元昭



今年度も終わりに近づいています。時の流れの早さには毎年のことながら驚かされます。卒業生諸君にとっても実感でしたでしょうし、在学生諸君に残された日々についても同様だろうと思います。

特にこの処の世の中の変化は大きく、うっかりすると取り残されそうになります。こういう時にこそ、己れをしっかり保つことが求められます。私がこの大学に来てから3年4ヶ月が経とうとしていますが、本当に気持ちよく過ごしています。私の本学に求めるものの一つは「居心地の良さ」ということです。その意味では申し分ありません。学生諸君も同様だと思いません。

ただ、学生諸君がおとなし過ぎるのではというのも実感です。あまりおとなし過ぎると世の中の変化に鈍感になってしまいます。時の流れが早いということは、諸君の学生生活も早く過ぎて行くことを意味します。聖書には

「いつも目を覚ましていなさい」とあります。聖書では、神の国の到来に気付かないことがないようにという意味で用いられていますが、諸君の場合にはそれだけでなく、世の中の動きに敏感でありなさいという意味にも取れるでしょう。それは、とりもなおさず己れの存在ということをもいつも考えなさいということにも繋がります。自分はこの大学に何をしに来たのか、何を求めてきたのか。これを念頭に置いて学生生活を有効に送る必要があります。

幸いにして、求めれば与えられる環境がこの大学には整えられています。親身に諸君を導いてくれる教員、切磋琢磨し合える友人を自ら求めて大いに活用して下さい。さまざま刺戟し合って意味のある学生生活を、残りの日々の中で送って下さい。

## 期待される大学へ

副学長 市川 充俊



年末の総選挙で政権が交代し、今年は景気が少し良くなるかもしれないと人々は思い始めている。経済の世界では人々がどのような予想（期待）をもっているのかということが決定的に重要な意味を持つ。好景気への期待が続けば、日本もようやく脱デフレとなるかもしれない。

話は変わるが、英和学院大学の2学科は今年ようやく12年目を迎える。歴史と伝統のある大学に比べ過去の実績で評価されるものは残念ながら少ない。

そこで、経済よろしく、将来の英和学院大学への期待値を高めるために、教育内容を見直すことになった。中心は、カリキュラムを整理し、新たに入学してきた学生が4年後

をイメージできるような内容にすることである。

現在実施のキャリア教育と相俟って「自分の将来を考えるのにいい大学かもしれない」という予想と期待のもてる大学を目指すつもりである。



## 2012年度静岡英和学院大学のクリスマス

クリスマス行事の開幕は第4回ワンコイン・クリスマスコンサートであった。

12月11日（火）のダンスサークルによる楽しくエネルギーッシュなダンスパフォーマンス、12日のベル部と歌とピアノの異色（？）のコラボと聖歌隊のクリスマス・キャロルの合唱、13日の英和学院大学が誇る吹奏楽団による演奏、14日の食物学科1年の田中知信さんによる本学初のマジックショーとワンコイン常連の地域福祉学科3年の高木淑花さん・岩崎里香さんによるピアノと電子ピアノの演奏が新館1階ホールで行われた。



19日（水）には大学クリスマス礼拝が行われた。照明をおとした新館5階講堂内において聖歌隊の賛美の音が響き、その間、4人の点火係の学生によりキャンドルに火が点された。学生による聖書朗読の後、伊勢田奈緒牧師による「光は明るい部分と共に陰の部分も顕わにするものであるから、人は光を求めつつ光を恐れる心を持っている。さらにキリストが世の光で



あるということはその光は私達の中に事実となった光であることを示し、高い天から照らすだけでなくこの世の最も低いところまで降った光であり外側からではなく内側から照らす光である。クリスマスは全ての人を照らすまことの光が天より地上の私達に与えられた日なのだ」という「光を見つめましょう」と題するクリスマスメッセージと祈祷があった。その後、キリストは世間から隔離された“神聖な”礼拝堂に在るだけではなく、貧しく小さくされた人々と共におられるというメッセージ性のあるトルストイの原作を元にした『くつやのマルチン』をI S E D A劇団（地域福祉学科3年増田祐貴さん他、学生出演）と聖歌隊のコラボによって上演された。劇終了後、クリスマス献金が献げられ出席者全員で「きよしこの夜」を歌い、祝福をもって礼拝を終えた。

午後6時からは例年通り、静かな夕べにキャンドルサービスとクリスマス会が行われた。キャンドルの灯りの下、神聖な雰囲気での礼拝が行われた後、クリスマス会ではベルサークルによるクリスマス曲の演奏、自由なおしゃべりタイムと盛りだくさんのごちそうで、和やかな時を過ごした。今年も多く多くの学生により手作りで温かい静岡英和学院大学のクリスマス行事が行えた。感謝。（宗教主任 伊勢田）



## ボランティアセンター

ボランティアセンターでは、1月16日（水）チャペル後の時間に、特定非営利活動法人いわてGINGA-NET代表の八重樫綾子さんを講師にお招きし、ボランティア講演会を開催しました。

八重樫さんは、岩手県立大学在学中に発生した東日本大震災の直後より仲間と共に被災地の支援活動を始め、卒業後の現在は、その活動を同法人の代表となり続けています。

「夏銀河」・「冬銀河」・「春銀河」と、長期休みごとにプロジェクトを組み、全国各地から訪れる学生の被災地での活動受け入れ体制を整え、仮設住宅でのサロン活動や子どもたちの遊び、地域行事の手伝いなど、様々な活動を展開。これらの活動は、震災前に学生ボランティアセンターで取り組んでいたプロジェクトでの経験がとても活かしているといいます。

地域の方々とつながりもその一つ。震災当日は、一人暮



らしの高齢者宅を回り安否確認をしながら大学に集まり、その後の活動では、自治会の方々と連携し、地域のニーズを聴き取り、それに合わせた学生たちの活動を展開しています。豊かな創造力と行動力でとても充実した取り組みが行われていることが伝わってきました。

同世代の学生の活躍の様子を聞いて、刺激となった人も多いのではないのでしょうか。災害時に備えて、私たちが日常生活の中でできること、心がけるべきことを改めて考える機会になっていれば嬉しく思います。

（ボランティアセンター 原川）





## 人間社会学科News ～夏休み韓国研修旅行～

人間社会学科観光系野瀬元子講師、崔瑛講師のゼミ所属3年生10名は、9月3日(月)から7日(金) (4泊5日)まで、韓国のソウル市と大田市で研修旅行に参加しました。今回の韓国研修は、観光を専攻する韓国の大学生との交流を通してお互いを理解することと、日韓両国の行政機関によるインバウンド観光振興の取り組み実態を把握する目的で行われました。

### \* 韓国の大学訪問

9月3日(月)～4日(火)は、大田(テジョン)市の培材大学で共同セミナーを開催しました。静岡英和学院大学の学生が中心となつての発表をしましては活発な質疑応答した。6日(木)は位置する建国大学英語・日本語を用いた学生間グループ・ディスカッションを行うことで、交流を深めることができました。



研究テーマが。会場で行われまソウル市にを訪問し、

### \* 観光地視察と行政機関訪問

9月5日(水)は、午前中にソウル市鍾路区に位置し、伝統的物産販売店が集積する仁寺洞(インサドン)でのま

ち歩きを行いました。さらに、ソウル市のボランティアガイドに案内され、かつての二つの王宮の間に位置し、昔ながらの街並みが保存されている北村(ブクチョン)を視察しました。北村では韓国伝統家屋の趣を感じる事ができました。午後は、静岡県庁ソウル事務所、国際交流基金ソウル文化センターを訪問し、地方自治体や日本政府関係者の方々から、韓国市場に対する日本のインバウンド観光振興の取り組みについてお話を伺いました。途中、KTO(Korea Tourism Organization)が運営するTIC(Tourism Information Center)に立ち寄り、KTOの概要や取り組み、TICに関する説明も受けました。国際社会における日韓協力の重要性や日本と韓国の違いについて、日本と韓国の観光行政の一線で活躍する専門家の方々のご意見を伺う貴重な機会でした。



その他、6日(木)午後は、韓国を代表するコンベンション施設であるCOEXを訪れ、韓国のMICE産業に関するレクチャーを受けました。研修最終日の7日(金)は、仁川国際空港で午前9時50分発のアシアナ航空機に搭乗し、午前11時30分、富士山静岡空港に到着しました。参加者の皆様のご協力で5日間の韓国研修旅行を無事終えることができました。(人間社会学科 崔)

## コミュニティ福祉学科News ～社会福祉士国家試験合格に向けた取り組み～

コミュニティ福祉学科では、必要な科目を履修することで、社会福祉士の国家試験受験資格を取得することができます。学科では他に保育士資格や幼稚園教諭1種免許状資格が取得できますが、社会福祉士の場合、卒業と同時に取得できるこれらの資格等とは異なり、国家試験受験資格の取得にとどまります。このため本学科では、授業とは別に国家試験合格を目指した受験対策を設けています。



受験対策では、19科目の解説を行う「対策講座」や学内外の「模擬試験」、そのふりかえりのための「確認テスト」や国家試験担当教員による「個別面談」が主なものになります。また毎月発行する「国家試験対策ニュース」では、時期に合わせた学習方法の紹介や受験に当たっての留意点、今回の国家試験で出題されると見込まれるポイントを示すなど受験者の学習を支える情報を載せています。

2012年度の場合、「対策講座」は年間を通して複数回行いました。前期の講座では過去問題のポイント解説を、後期講座では出題基準に沿った全科目の解説と法改正の解説が行われました。12月の直前対策講座では、これまでに学んだ知識の確認をしながら最後の総まとめをしました。いずれも担当教員が国家試験問題の傾向を分析して作成したレジュメを使用します。第25回社会福祉士国家試験は1月27日に行われました。毎年合格率が30%を下回る難関の試験ですが、受験生が存分に力を発揮してくれたことと思います。



なお公務員の保育士を目指す学生にも、公務員対策講座を開講しています。多くの学生が、自らが希望する資格の取得や進路の決定ができるよう、学科を挙げて支援しています。(コミュニティ福祉学科 岡部)



## 現代コミュニケーション学科News

### ～職業体験記～

#### \*しんきんビジネスマッチング静岡2012に参加

2012年10月17日、静岡市のツインメッセにおいて、「しんきんビジネスマッチング静岡2012」が開催されました。今年は今現代コミュニケーション学科から17名の学生が参加しました。広い会場に中小企業を中心としたブースが並び、独特の熱気につつまれた中で、学生たちは企業ブースのアシスタントを務めました。ブースを構えている大学は他にもありますが、学生がアシスタントとして参加しているのは本学だけで、若さと明るさで好評を得ていました。学生の指導にご協力いただいた焼津信用金庫の方々にお礼申し上げます。



また現在企業で活躍されている卒業生の方々も訪ねてきてくださって、後輩たちの活躍を喜んでいただけました。

#### \*医療スタッフ接遇講習会に参加

現代コミュニケーション学科では、静岡県保険医協会との連携のもと、今年も医療スタッフ接遇講習会に学生を派遣しました。11月6日（火）、静岡労政会館ではメディカルクラーク・ユニット履修の学生17名が受付・案内

内を行い、また受講生として講習会に参加しました。

この講習会は、医療機関の職員に対し参加が義務付けられているものですが、本学学生は静岡県保険医協会から特別に認められて、昨年度から参加しています。



現代コミュニケーション学科からは、毎年、医療機関に就職する学生がおりますが、現場に出ると、短大の授業からでは予測しにくい、接遇上のトラブルに出会うこともあります。この講習に参加することで、そのようなトラブルにあらかじめ備えることができ、学生にとっても意義深い講習ということが出来ます。



10月29日（月）浜松アクティシティでの講習会には2名、11月15日（木）三島市民文化会館での講習会には8名の学生が参加しました。（現コ学科 柴田）

## 食物学科News

### ～最近の出来事～

#### \*食物学科のインターンシップ

食物学科では、昨年度よりインターンシップを開始しました。本年度も1年生16名が、8月から9月にかけて、食品関連企業、ホテルなどでインターンシップを行いました。3日間という短い期間ではありますが、貴重な就業体験をすることができました。

#### \*オープン・キャンパス、サマーキャンパス報告

例年通り、通常のオープン・キャンパスに加え、7月30日、8月26日には、サマーキャンパス（1日体験入学）が行われました。短大部は、朝から新館5階の講堂で、短大合同説明会を企画し、学長挨拶、短大紹介、ダンスサークルによるダンス、学生トークなどを行いました。食物学科では、模擬授業として、話題の放射線と安全性についての講義や、にんじんケーキ作り、お米の食べ比べなどを行いました。

#### \*楓祭で「まぐろラーメン」と「英和カレー」を販売

11月3、4日には恒例の楓祭が行われました。食物学科でも学生たちが、ベジタブルスープや、たこ焼きなどを販売しました。また、食物学科グループのダンスが披露されるなどおおいに盛り上がりました。中でも清水の伊比水産（株）と共同で開発された「まぐろラーメン」や



焼津の石田缶詰（株）と共同で開発された「EIWAカレー」が販売され、好評でした。

#### \*学生による地域での食育活動

昨年に引き続き、静岡ガスエネルギーショールームでの食育活動のほか、焼津信用金庫（まるせい）との連携事業として、8月17日、21日には焼津地区での食育活動「夏休みクッキング教室 野菜とフルーツのデザート作り」を行いました。また、12月1日には、生活協同組合コープしずおかとの連携事業として、親子向けクリスマス食育クッキング教室を行いました。世界と日本の食文化の違いを学びながら、フィリピンのおかし「トゥーロン（バナナの春巻き）」、ブータンのおやつ「ザウ（赤米をいっただもの）」、クリスマスのクッキーを作りました。参加してくれた学生にとっては、企業の方々と一緒に地域の方々のために働くという経験をする事で、良い意味での緊張感を味わい、社会人として成長していく貴重な機会となりました。（食物学科 堀江）





## キャリア支援課

～満足度99%の業界勉強会～

「学生に各企業の特徴や事業内容・仕事の内容をより深く行うことの必要性を実感させ、実際の就職活動に役立たせることを目指す」業界勉強会が、本年度も大学3年生・短大1年生を対象に20の企業・法人の採用担当者の方にお越しいただいて、平成24年11月21日(水)に実施しました。

参加した学生は、大学生128人、短大生127人でした。参加した学生からは、「大変有意義だった」「有意義だった」と答えた者が、大学生・短大生とも99%と、大変満足できるものとなりました。

### ○学生からは勉強会に対する感想が次のように寄せられています。

「とても分かり易い説明でした。どんな仕事内容なのか知ることができて良かったです。どの企業も、地域と密着しているということが印象に残りました。」

「それぞれの企業に質問しましたが、どの担当の方も的確に答えてくださったので、分からないところをなくして帰ることができました。」

「自分が思っていたより仕事は深いこと、でもどんな仕事も大変で、その中に大きな達成感があることが分りました。」

「同じ業種でも、企業によって全然違うことが分かりよかった。」

「今回の面談で事前の会社分析の大切さを学ぶことができました。」

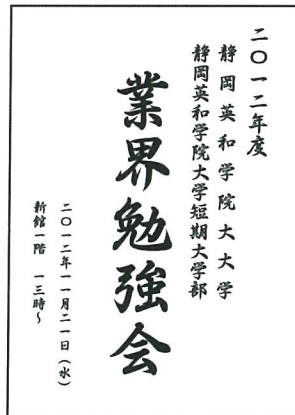
「仕事に対する考え方が変わりました。」

「これからの活動力となるような、為になるお話、情報をたくさんくださったのでとても助かりました。丁寧な対応がうれしかったです。」

「企業の方の経験談を交えての説明は、聞いていて参考になりました。」等

### ○企業・法人からは、

「身だしなみ」について5段階評価で4.1と高い評価を頂き、「挨拶」や「言葉遣い」は3.6



とまずまずの評価でした。しかし、「質問力」3.1、「積極性」3.0と課題も指摘されています。また、次のご指摘や助言も頂きました。

「訪問カードを見ると一枚一枚手書きで丁寧に書かれていました。真面目にコツコツと努力する学生が多く居られると思います。当日は緊張していたと思いますが、もう少し積極性が出るともっと良いと思いました。」



「話の聞き方、うなづく方が少なかったです。すべての方とは申しあげませんが、話を聞く、理解する姿勢が不足、分かったかわからないのか無反応でした。社会人になると、上司、先輩から仕事の指示を受けるとき、必要なことです。」等

高い満足度を得られた業界勉強会でありましたが、参加した学生から次の様な改善意見がありました。これらの意見を取り入れながら就職委員会・キャリア支援課は学生へのキャリア支援・就職支援を進めてまいります。



「質問の時間を長くして頂きたい。」

「休憩時間が少なかったため、時間配分を見直して欲しい。」

「業種に偏りを感じた。幅を広げ、美容やアパレル関係企業の参加を希望。」

「それぞれの企業ブースが近く、1つ1つの企業の説明が聞き取りにくかった。もっと広い会場ですべて欲しい。」等

リーマンショック以来厳しい雇用環境が続いていますが、今回の機会を活かし、大学で学んだこと経験したことに自信を持ち、たくましく前進してくれることを願っています。

(キャリア支援課 奥村)





## 学務課 ～火災避難訓練が行われました。～

去る10月3日(水)の礼拝の直後、主として1年生を対象に、火災避難訓練を行いました。本学では春に地震避難訓練、秋には火災避難訓練を行います。

訓練は自衛消防隊の各班(通報連絡班、火災工作班、避難救助班、救護班、搬出警備班)が企画して実施しております。

今回は、消火訓練、避難訓練、救護訓練等を鈴与技研(株)と静岡市石田消防署のご協力により実施しました。

消火訓練は、消防署員の指導により、水消火器を使っての消火訓練でした。

コミュニティ福祉学科1年生が参加し、盛況でした。全員が何度も消火できたようです。

避難訓練は、短大生が参加しました。鈴与技研社員の



指導の元、新館5階ホールから地上まで脱出シューターで滑り降りるというもので、5階の窓から身を乗り出す恐怖、閉ざされた白いチューブの中を高速で滑り降りる恐怖からか、いつもの年のような飛び入り参加者もなく、短時間で終了しました。

救護訓練は、消防署員の指導により、心肺蘇生とAED取扱訓練を実施しましたが、人間社会学科は人数が多かったため、実地訓練ができたのはわずかで、大半の学生にとっては座学で終わってしまいました。

(学務課 山縣)



## 学務課 ～第47回楓祭(学園祭)～

第47回楓祭、今年のテーマは「音色」でした。

キャンパス内を音色に溢れた学園祭にしたいという実行委員の思いが込められたものです。

今年は秋晴れの心地よい日差しの下で、楓祭を開催することができました。模擬店や展示は37団体出展され、多くのお客さんと賑わいました。



模擬店については例年出展し、円滑に作業を進める団体、今年初めてで試行錯誤している団体など様々でしたが、どの団体を見ても仲間同士が協力し合い、楽しそうに笑顔浮かべていました。また、展示や発表の部では、一年間の集大成とし、多くの観客を魅了する一幕も見受けられました。

学友会企画による催しでは、モデルでもありタレントの

Joyさんによるトークショーも行われ、二日間の来場者用に準備していたパンフレットがすべて無くなってしまおうような嬉しい悲鳴とアクシデントもありましたが、大きなケガや事故もなく今年の学園祭を成功裡に終えることが出来ました。

本学は大きな大学ではありませんので、学生同士が顔見知りであることは多いですが、何か協力して活動するという事は普段の生活に多くありません。その意味でも年に一度の「楓祭」は、お互いが大学という場でのコミュニティであり家族としての絆を深める祭典でもあります。

そんな絆の一片をキャンパス内で深めることのできた二日間となりました。(学務課 森)



## 学務課 ～2012年度公開講座～

本学では毎年、地域の生涯学習の一助として公開講座を行っています。今年度の公開講座は「人生を旅する」を共通テーマに全6回開催し、のべ200名以上の方にご参加いただきました。小学生から受講可能な講座も開講したため、小学生からご年配の方まで幅広い方が参加してくださいました。

気軽に参加できるように、参加者の方々が実際に作業をしたり、グループに分かれて話し合ったりする体験型・参加型の講座を心がけ



ました。学ぶだけでなく、楽しんでいただけた方が多く、例年行っている講義形式の講座に比べ、好評をいただきました。

今後も工夫を重ねて、楽しく学び、教養を深めていくことができる講座を開催して参ります。(学務課 小田)





## 留学生センター ～2012年度活動報告（後期）～

2012年度後期、留学生センターでは、学生相談、情報提供、異文化交流の促進の他、学内外で行われた様々なイベントにも積極的に参加しました。

一般活動として住宅、各種手続き、修学、進学、病気の相談や学習、進路、日本語、パソコンのサポート、そして学務課、キャリア支援課と連携した情報発信などに努めました。また異文化交流の促進では、絵手紙や日本伝統文化の華道体験を通して、日本人の心や美意識を理解し、完成した作品に感動を覚えました。そして、お正月に合わせて、年賀状やお正月飾り作りにもチャレンジし、お正月文化を学びました。

学内では、第47回楓祭でみんなの力を合わせた展示と模擬店で初デビューを果たしました。世界の国々の紹介ができ、母国の自慢の手料理も大好評でした。

学外では、御前崎市にて市民ふれあいイベントに参加し、ステージで民族衣装の披露や子供たちや市民と楽し



く交流することで友好関係を深めることができました。そして、その後のホームステイでホストファミリーたちと深い絆を築くこともできました。

また、「第9回留学生日本語弁論大会静岡県大会」では、留学生2名が出場し、それぞれ優秀賞と奨励賞を獲得し、良い成績を収めました。

留学生センター開設の一年目、まだまだ至らない点がたくさんあると思いますが、少しずつ改善して充実した活動ができるよう頑張っていきたいです。

今後ともご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。  
(留学生センター 鈴木)



## 総務課 ～2013年度授業料等学納金の納付書発送および納入期日について～

	前 期 ※1	後 期 ※1
納付書発送時期	2013年4月上旬	2013年9月上旬
納入期限 ※2	2013年4月25日(木)	2013年10月2日(水)

※1 授業料等学納金は、前期と後期の2期に分けて半分ずつ徴収します。

但し、1年生・3年次編入生（2013年度入学生）の前期分は、入学手続き時に徴収済みです。

※2 家庭の事情等により、期限内に授業料等学納金の納入が困難な場合は、学務課（Tel:264-8873）に相談してください。



## 大学後援会 ～コンサート～

2013年2月10日（日）静岡英和学院大学コンサートが開催されました。

テノール歌手で知られる錦織健さんをゲストに招き、新館5階講堂にてコンサートを行いました。

当日は、錦織健さんの歌声を求め、約500名の方が来場されました。錦織健さんの迫力ある歌声やユニークなお話を聴くことができ、来場者の方々に大変喜んで頂きました。また満足して帰る様子もとても印象的でした。

コンサートを大成功の形で終えることができたのも、当日ご協力してくださった後援会役員の皆様のおかげで

す。ありがとうございました。  
(総務課 松浦)



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545  
静岡市駿河区池田1769  
TEL 054-261-9201  
FAX 054-263-4763

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>  
[info@shizuoka-eiwa.ac.jp](mailto:info@shizuoka-eiwa.ac.jp)

企画・編集 学報委員会